

平成29年度 京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（最終評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>知情意体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。</p> <p>2 豊かな情操【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともにボランティア精神を養う。</p> <p>3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。</p> <p>4 健康でたくましい心身【体】 自他の生命を大切に、心身ともに健康でたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 進学希望者の中には、本校が推進する地方創生教育の経験を活かして福知山立大学地域経営学部を合格を勝ち取った生徒もいた。また、9年連続して就職希望者が全員内定となるなど、本校が推進する教育が成果につながった。</p> <p>(2) 京都フロンティア校（地域創生推進校）として地域と連携した取組「TANTAN見本市」や「映像ミュージアム」などによって本校の特色化をさらに推進することができた。また、地域住民の高い評価を得ることができた。</p> <p>(3) 「法やルールに関する教育（主権者教育を含む）」では、地元市議会議員との懇談会、高校生議会、模擬選挙など先進的な取組ができた。</p> <p>(4) 学習指導・進路指導に関する教職員研修を実施した。また、府教委より指導主事を招へいし、授業改善に取り組んだ。</p> <p>(5) ワープロ・簿記・英語スピーチコンテストの全国大会出場者を輩出することができた。プラスバンド部が多くの地域イベントに出演し、弓道部が地域住民対象の弓道教室も開催するなど、活躍した。</p> <p>(6) 学校だより・ホームページ・お知らせメールの発行・更新の回数を増し、広報活動に努めた。新聞報道も前年度の約2倍の掲載回数となった。また、説明会や出前授業を積極的に行い、本校教育活動に対する理解を前年度より深めた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 学校改革の大枠は検討したが、今後詳細を検討する必要がある。</p> <p>(2) 3マナーアップ運動を実施したが、十分な効果が上がることができていない。特に通学上・授業のマナーアップが課題である。</p> <p>(3) 多様な生徒が在籍する中で「生徒を伸ばす学校づくり」を継続し、基礎基本と家庭学習習慣の定着、個に応じた学力の向上が必要である。</p> <p>(4) 地方創生教育の要素を授業に取り入れ、さらに推進する。またその一環として生徒会活動・部活動・ボランティア活動を一層活性化させる必要がある。</p> <p>(5) 安心・安全な学校環境の構築に向けた努力が必要である。特に防災に係る教育と交通安全に係る指導を継続して強化する必要がある。</p> <p>(6) 平成29年度入学生のうち普通科で定員を下回り、さらなる積極的・効果的な広報活動が必要である。</p>	<p>1 社会人基礎力を身につけるために必要なマナーアップを3つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。</p> <p>(1) 通学上のマナーアップ 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。</p> <p>(2) 校内でのマナーアップ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心・安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。</p> <p>(3) 授業のマナーアップ 積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学ぶ姿勢の育成と基礎学力を向上させる。</p> <p>2 「生徒を伸ばす学校づくり」を強化する。 きめ細かく粘り強い指導により、また個に応じた学力の向上を図ることで、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるように努める。また、家庭との連携や地域との連携により、学校・家庭・地域の三者で生徒を育てる。</p> <p>3 安心・安全な学校環境の構築を進める。 いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。</p> <p>4 学校改革と地方創生教育による特色化をさらに推進する。 平成27・28年度に推進してきた地方創生教育をより体系的・効果的に推進する。また、将来に向けた学校改革を具体的に検討する。</p> <p>5 積極的な広報活動を展開し、本校第1希望者の増加につなげる。 地方創生教育の実践的な学びの要素を取り入れ両学科の内容の充実に努め、出前講座や中学校へ出向いての説明会、報道機関等への情報提供など積極的な広報活動を展開する。</p> <p>6 生徒会活動・部活動などの課外活動を活性化させる。 生徒会活動・部活動を奨励し、一層の活性化を目指す。また、ボランティア活動を多くの生徒に経験させ、自己有用感の涵養につなげる。</p>

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	学校改革と地方創生教育によるさらなる特色化の推進	<p>■学校経営戦略会議を軸に、昨年度までにまとめた学校改革について詳細を検討し、教育課程も含めた具体的な改革案を作成する。</p> <p>■京都フロンティア校（地域創生推進校）指定校として過去2年間に取組んだ地方創生教育をより体系的・効果的なものに整理し、地域の活性化につながる学習内容を充実させることで地域の未来を担う生徒を育てる。</p> <p>■学校設定科目を中心にアクティブラーニングや体験活動の要素を取り入れ、普通科・ビジネス科学科両学科の特色を生かした本校独自の魅力ある授業内容の研究を進める。</p>	B	B	<p>■学校改革に向けて会議を重ね、核となる方向性を決定することができた。今後さらに具体的な検討・準備に移る。</p> <p>■京都フロンティア校（地域創生推進校）としての取組は多岐にわたって取り組むことができた。立案・運営する活動、活性化策を考える活動や調査・研究を通して、生徒たちの研究する力や対応力などの向上も見られ、高い学習効果につながった。一方で、各学科や教科が独自で取り組んでいる段階であり、教育課程への確立を急ぎたい。</p> <p>■広報活動や中学校との連携を積極的に行うことができた。しかしながら志願者増にはつながらなかった。本校の魅力を伝える手段について新たな一手を考える必要がある。また、教職員全体で対応する必要がある。</p>
	積極的な広報活動の展開による本校第1希望者の増加	<p>■広報紙発行、メディアリリース、ホームページの更新（リニューアルを含む）等を積極的に行う。</p> <p>■各種説明会やオープンスクール等の内容を充実させることで中学生・保護者・地域の本校への理解を深める。特に中学校での出前授業や体験授業を充実させることで本校の魅力を伝える。</p>	B	B	

学習指導・進路指導	「生徒を伸ばす学校づくり」の強化	<p>■生徒一人一人の能力・適性・特性に応じた教材や授業方法を工夫し、誰もが分かる授業を展開するとともに校内外での研修を継続的にし、授業力のアップにつなげる。また、地域との連携等を通じて主権者教育、人権教育、道徳教育など様々な視点からの学びを提供する。</p> <p>■学年部と教科担当の連携を密にし、個々に応じた丁寧な指導を行う。特に学習に課題を抱えている生徒に対しては補習等の指導を粘り強く行う。</p> <p>■課題、小テスト、学習プリントに取り組みせたりすることで家庭学習と基礎基本の徹底を図り、確かな学力につなげる。</p> <p>■図書館の利用の促進、積極的な資格取得、コンテスト・コンクールへの参加等を奨励・指導することで、表現力や自己有用感の涵養につなげる。</p> <p>■系統的な進路指導計画に基づいて、低学年から個別面談やガイダンス等によりきめ細かい指導を行うことで、積極的に進路を考え、行動に移す力をつける。</p> <p>■キャリア教育・職業教育を充実させ、実践や体験から望ましい職業観・勤労観を育てる。</p>	B B B	B B B	<p>■様々な学力層の生徒が混在する中で、各教科で授業の進め方や教材などを工夫したり、表現活動、体験学習や校外学習を取り入れたりと、多面的な学びを提供できた。</p> <p>■基礎力補習についても学年部と連携して取り組み、丁寧に指導することができた。また、授業のみならず、課題や小テストを定期的に行い、幅広く評価することで、基礎基本の徹底を目指した。しかしながら、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討しなければならない。</p> <p>■地歴公民科（福知山公立大「田舎甲子園」）、商業科（全国簿記コンクール、全国ワープロ競技大会、英語スピーチコンテストなど）の指導のもと生徒たちが活躍した。</p> <p>■系統的かつ計画的に進路指導を行い、就職内定率100%（約90%が地元企業）、国公立大学1名合格につながった。</p>
生徒指導	マナーアップ指導による社会人基礎力の涵養	<p>■通学上、授業、学校行事等を通じて、一貫したマナーアップの指導に取り組む。特に「乗車マナー」、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉遣い」、「携帯端末の使用」、「清掃活動」等の社会生活を送る上で必要な基本的なマナーを全教職員体制で粘り強く丁寧に指導する。</p>	C	C	<p>■マナーアップを目指し、通学・学校生活での指導に取り組んだ。乗車マナーなどで苦情を受けることがあった。乗車前指導を継続したが、十分な成果につながっていない。学校生活では、特に年度初めは授業に向かう姿勢に課題を抱える生徒が多く、指導に苦慮したが、学期が進むにつれて少しずつ落ち着きが出てきた。一方、身だしなみや携帯端末の指導については課題が残った。</p>
	安心・安全な学校の構築	<p>■教育活動全体を通して社会の一員としての生き方、生命の大切さ、交通安全について啓発する。また、地域、PTA、警察等とも連携した指導を行うことで、学校だけでなく、地域全体で生徒を育てる。</p> <p>■危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理、また老朽化備品の廃棄及び備品整備を行うことで安心・安全な学校づくりを推進する。</p>	B	C	<p>■PTAや警察と連携した交通安全指導は計画通りだったが、より多くのPTAの方々に参加してもらう必要がある。地域の方々に巻き込んだ取組まではできておらず、今後の対応を検討しなければならない。</p>
	課外活動の活性化	<p>■部活動への加入を奨励し、活性化を図る。また、地域と連携したボランティア活動や本校独自の取組への参加を奨励することで、自己有用感の涵養につなげる。</p> <p>■生徒会執行部を基軸として各委員会を機能させ、各種学校行事を主体的に運営し、成功につなげることで、生徒会活動を充実させる。</p>	B	B	<p>■生徒会活動やボランティア活動については、地域と連携して積極的に取り組むことができ、生徒たちも地域の方々の関わりの中で学ぶことができた。一方、部活動の加入率が低くなり、活性化に苦慮している。</p>
保健・環境	健康相談の充実と要支援生徒に対する支援体制の確立	<p>■健康診断と事後指導を徹底し、また保健日よりスクールカウンセラーの情報提供を定期的に行うことで自己管理できる素養を育てる。</p> <p>■要支援生徒に対してスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー、関係専門機関、関係分掌、保護者との連携を密にし、迅速かつ適切な対応を取る。</p>	B	B	<p>■健康診断は、未受診の生徒に個別の声掛けを継続した結果、昨年度と比較すると受診率が高くなった。しかし完全受診には至らなかった。保健日より1年を通じて発行し、健康管理に対する啓発を行うことができた。</p>
	教育環境の整備	<p>■学校予算の効果的な配分・執行を行うことで、効果的な教育活動につなげる。また、清掃活動をはじめとする教育活動の中で環境整備の意識を啓発する。</p>	A	A	<p>■危険箇所の整備については、衛生委員会とも連携し、計画的に整備することができた。</p>
学校関係者評価委員会による評価	<p>■地域とともに地域活性化に向けた取組を行い、学校の特色づくりを頑張っている。ただし、これまでの生徒に比べると積極性に欠けるところもあるので、観光資源を活用した観光ボランティアなど様々な形で体験の機会を増やしていただきたい。</p> <p>■地域連携の成果を一般市民にアピールするために大江高校新聞などの広報が必要である。また、イベント等ではチラシを作成し、広く知ってもらう必要がある。</p> <p>■学校評価アンケートから、生徒の意識と保護者の差があり、保護者の方が厳しい評価になっているので、理解してもらう方策を考える必要がある。</p> <p>■進路指導については、就職内定率100%でも分かるようによく指導されている。1年次から大学見学や企業見学にはこれまでに多くに多くの機会を設けて、早い段階から進路意識を高めてもらいたい。多様な生徒が在籍する中で、指導には苦慮されていると思うが、生徒のやる気を引き出すことを今後も大切にしていきたい。</p> <p>■さらに地域連携の機会を増やし、体験の中でマナーを学ばせるとよい。また、学校内はもちろんのこと、家庭との連携の中で社会のルールやマナーを身に付けさせてもらいたい。</p> <p>■先輩・後輩の関係から学ぶことは多く、部活動の活性化をお願いしたい。生徒に興味を持たせることで生徒会活動やボランティア活動についてもより活性化できればよい。</p>				
次年度に向けた改善の方向性	<p>■地域と連携した取組を通してコミュニケーション能力や考えて行動する力だけでなく、社会のルールやマナーを学ばせるために、これまでの取組を深化させたり、見直しをしていかなければならない。また、学校改革を見据え、教育課程の中で学校改革後に活用できる指導内容や指導方法について試行錯誤をしていく必要がある。</p> <p>■普段のマナーアップを目指して学校全体で取り組んでいく必要がある。特に学校での指導だけでなく、公共交通機関でのマナーアップ、家庭との連携、部活動・生徒会活動・ボランティア活動などの活性化を進めることで、多様な生徒たちのやる気を引き出し、本校に入学してよかったという評価を高めたい。</p> <p>■本校が取り組んでいる内容を広く一般に知ってもらうためにも、広報について再度戦略を練り、積極的に働きかける必要がある。</p>				